





幸せの青い蜂  
吸蜜するルリモンハナバチ

## 里山の花畑・里の小屋友の会代表 櫻田稔さんに聞きました

去年12月群馬県は～ネイチャー  
ポジティブ宣言～を行いました。

その活動に賛同し、早速森の再生に  
取り組んだ櫻田稔さんにお話し伺いました。

——ネイチャーポジティブというのはどういうこと

櫻田 当たり前のこと。この自然を経済経済と追っている  
うち、大切な自然、植物、生物動物、人間の環境、すべて  
が破壊、劣化されていくのを見直し、自然や生物すべての  
回復と再生、自然を守ることを重要課題にしようという  
取り組みかな。

——実際の櫻田さんの取り組みは

櫻田 安中にある崇台山のふもとに「里山の花畑・里の  
小屋友の会」と称して里山再生活動をしたのがきっかけ  
です。とにかく群馬百名山の場所で自然の宝庫、まだ手  
付かずの山や森は荒らされていない聖地なのに、荒れ放  
題でした。手を入れると限りない世界が広がります。花は  
咲き乱れ、虫も鳥も生き生きしている。川には蜚が来るし、  
めったに見られない「幸せの青い蜂」やエメラルドグリー



左から里見先生、櫻田さん、岡部さん。

ンの「宝石蜂」がきれい  
な空に飛び交うのを見  
ると、ほんと、自然の恵  
みは、気持ちを優しくさ  
せる実感しますよね。

地元の人たちの協力で、希少な宝物の  
ような生き物たちがそれぞれ自然によってくる。帰ってくる。  
もう絶滅かと言われた草花が群生している。土を優しく  
保護することの楽しみは言葉でいえません。

——本当に私も訪ねてみて感動しました。虫が嫌なん  
て言っていましたが、静かに飛んでいるのを追っか  
けたり、花や草を見ていて、藍や茜に目を輝かせた  
りしているうち、ともに生きているものすべてと共  
生という意味が分かったような気になりました。

櫻田 こうした場所に多くの人に来てほしいと思う反面、  
人に荒らされてしまうのでは、と言った不安もありますが  
ね、今だったら、捕獲されたり、根こそぎ引き抜いていっ  
てしまうとか、心ない人もいますからね。だからこそ、自  
然に対するの対処の教育がより大切になってくると思うし、  
こうした自然を守りたいという気持ちが強くなればなる  
ほど、手は抜けない。継続の大切さを感じています。  
同じ生き物、自然からいっぱい恵みをもらっているとい  
う心が我々に必要だし、ネイチャーポジティブ宣言の底  
に流れていなくてはならないと、おもいますよ。

櫻田さんは自然共生サイトに正式に認定されました。  
私達ねぎぼうず館も《ものがたり山プロジェクト》とし  
て情報を共有し、ともに自然共生、ネイチャーポジティブ  
を軸に様々な取り組みを実行してまいりたいと思います。

ききて 西舘 好子

## 手づくり教室開設に向けて 手作りにこだわって

手仕事や主宰 上原孝子

群馬県から富岡市に移管された社会教育  
会館の館長に就任したところの仕事はまずは館  
を市民に知ってもらうことでした。

自分の好きで楽しいと思うこと、身近に心  
に残る手作りのものを作ってみようと草履づ  
くりや、染め物教室などしました。富岡製糸  
工場という女性たちの仕事でにぎわった町と  
絹は子供の頃の私の記憶の中に残っていたせ  
いかもしれません。

その頃は、富岡製糸場を世界遺産に、の気  
運が高まっていて、私も懐かしい絹への思いが、  
もうあまり着なくなっている絹の着物のリメ  
イクや、着物にまつわる着付けや小物づくりに  
自分の夢が広がっていくのを感じました。  
実際、家でも養蚕をしていましたから、母  
や祖母の蚕への思いが私に伝わっていたのかも  
しれません。自分も繭を顔にして、シルクの  
衣装を着せ、製糸場の見学者に差し上げたり  
しました。

本当にあまりに手作りにのめりきってとい  
う手を痛めてしまいました。

下仁田で女性村ができ、私の作品の展示と  
販売をしたら、というお誘いで再び手作りに  
心が動きました。親が残してくれた着物たち  
がタンスごと売られたり、捨てられる時代。  
痛ましいしかわいそう。着物を着ない時代と  
いえ絹は素晴らしい歴史と文化を持ち、リメ  
イクで私たちの生活に潤いや優しさをくれる  
ものです。女性たちのホルモンにまで影響す  
るといふ絹を改めて女性に見直してほしいし、  
身に着け、小物としても持っていてほしいと。  
ねぎぼうず館では「手作り教室始めます」

実際、ここで優勝祈願をした県内の高校  
が夏の甲子園で日本一になったことがあ  
ります。もちろんそれは選手たちの弛  
まぬ努力によって達成されたものでしょ  
うが、少なからず大  
黒様のご利益もあつ  
たのかもしれないと  
てみたいところでも  
あります。



さて次に中之嶽  
神社ですが、ここを  
お参りするには相  
当の覚悟が必要で  
す。険しく長い石段  
を登って行かなくて  
はならず、しかもそ  
の石は長い年月で風  
化され表面がでこ  
ぼこになっていて、  
歩きづらいことこの  
上ないからです。石  
段の数は一四五段、  
もし途中で足を踏  
み外したらご利益  
どころの話ではな  
くなってしまいます。  
一段一段慎重に歩  
を進めていくと、上  
方に神社の拝殿とそ  
の背後にそびえる轟  
岩（とどろきいわ）  
が見えてきます。轟  
岩は高さ数十メー  
トルあるうかと思  
われる尖った大き  
な岩で、これが中  
之嶽神社の御神体  
となっています。  
そのためこ  
ろから、この神社  
の大らかさを感じ  
ることができま  
す。

8月30日（土曜日）  
ねぎぼうず  
詩に触れて詩をつくらう  
立春が過ぎてもこの猛暑、残暑の下仁  
田も緑の木々も元気がなさそう。  
午後には「詩を知って詩を創ろう」のワー  
クショップ。20名あまりの皆さんが、暑さ  
の中集まってくださいました。  
後援：日本詩人クラブ  
対談：国見修二・西舘好子  
詩の作り方と実作：貝塚津音魚・国見修二  
音楽にのせて詩の朗読：近藤征治  
ギター演奏とうた：藤井秀亮  
なぜ今詩が必要か、言葉は言葉から出  
る、それが今衰退しているのでは。伝えた  
い言葉の大切さなどの話を、詩人の国見  
修二さんと理事長の西舘好子が対談、次い  
で詩人で県の鳥獣管理士である貝塚津音  
魚 詩作指導、みんなで詩を作りました。  
荒れた里山に住む動物たち、そして里  
に下りてくることに害をこうむる人間た  
ち、それぞれの痛みを詩にして発表して  
いる貝塚氏、貝塚さんは栃木県現代詩人  
会長、国見さんは新潟詩人会を率い、その  
二人の心が賛同者に伝わったのでしょうか、  
みんな自分の言葉で「詩」を作り、出来上  
がった自作を朗読しました。  
ゲストでギタリストの藤井秀亮さんが  
貝塚さんのイノシシの詩に作曲した歌が

披露され、子守唄で締めました。  
楽しいワークショップでした。これから  
も折に触れてこんな催しをしてみたいと  
思います。終わって下仁田の理事長自宅で  
「酒盛り」も楽しかったです。人と人が触  
れ合うことの大切さは機械では味わえな  
い生のうれしさでした。今日は野火止の  
近藤さんがカレーを作ってきてくれてま  
した。自作の梅干しとラッキョウを添えて。  
8月31日（日曜日）  
高橋美清尼僧の  
「青空説法」  
恒例の高橋美清尼僧の「青空説法」地  
獄極楽の話、仏教の師匠の話、ここで説法  
の意味など楽しく多岐にわたりました。  
終わりは「のんのさま」という唄を皆で昌  
和しました。美清氏のさわやかな笑顔で  
涼し気な雰囲気になりました。  
激暑の夏、土・日は新しいお客様もお見  
えになり、その間上信電鉄の「ハロイン列  
車」運航の打合せなど、先の楽しい催事の  
打合せをしました。  
東京に帰る私の手元に「梅ジュース」「な  
す」「きゅうり」「トマト」など取り立ての  
野菜や果物がいっぱい。さて貝塚さんか  
ら頂いた新鮮な「イノシシの肉」寒ければ  
鍋にしますが、今は冷凍室でおねむりい  
ただくこととします。